

イチゴ「ふくあや香」促成栽培の育苗期と本圃の窒素施肥量

福島県農業試験場野菜部
平成17年度試験成績概要

1 部門名 野菜－イチゴ－品種、施肥法、作型・栽培型

分類コード 03－07－01131800

2 担当者 太田弘志・雨宮潤子

3 要 旨

イチゴ「ふくあや香」の育苗期の施肥量が苗質や花芽分化に与える影響及び促成栽培における本圃の窒素施肥量が生育・収量に及ぼす影響について検討した。

(1) 育苗期の窒素施肥量はポット当たり0～200mgの範囲で検討した結果、定植期の生育では、窒素施肥量が0mgでは極端に劣った以外は大きな問題は見られなかった。また、花芽分化は、調査株すべてが花芽分化初期となったのが0mg、50mgで9月20日、200mgで9月26日、100mgで9月28日であった。

(2) 本圃の窒素施肥量については、1.3～2.5kg/aの範囲で検討した結果、商品収量は、「とちおとめ」では施肥量に応じて増加する傾向が認められたが、「ふくはる香」では、施肥量を1.3kg/aまで減じても減収する傾向はみられなかった。

以上の結果から、「ふくあや香」において安定した花芽分化を得るための育苗期の窒素施肥量は、株当たり窒素成分50mg程度が適当であり、促成栽培における本圃施肥量は、窒素成分1.3(kg/a)まで減量しても問題ないと考えられた。

4 その他の資料など